

官民研究開発投資拡大プログラム(PRISM) 審査・評価委員会  
国立大学イノベーション創出環境強化事業分科会 概要

【令和3年度第1回分科会】

1. 日 時：令和3年8月6日（金）9：00～19：00
2. 場 所：オンライン（事務局会場：内閣府 中央合同庁舎第8号館6F 623会議室）
3. 議 事：
  - （1）審査・評価委員会と座長について
  - （2）採択から2年目のフォローアップに関する審査の進め方について
  - （3）採択から2年目各大学からのヒアリング
  - （4）採択から2年目のフォローアップ 審査結果について
  - （5）採択から3年目のアワードに関する審査の進め方について
  - （6）採択から3年目のアワード申請大学からのヒアリング
  - （7）採択から3年目のアワード 審査結果について
  - （8）採択から3年目のフォローアップ（アワード非申請大学）に関する審査の進め方について
  - （9）その他

4. 分科会委員 ※◎は座長（五十音順・敬称略）
  - 五十嵐 仁一（ENEOS 総研株式会社代表取締役社長）
  - ◎上山 隆大（総合科学技術・イノベーション会議常勤議員）
  - 岸本 康夫（JFE スチール株式会社スチール研究所研究技監）
  - 本山 和夫（学校法人東京理科大学会長）
  - 渡辺 裕司（元株式会社小松製作所執行役員経営企画室副室長）

5. 評価方法 及び 配分案の決定方法

<採択から2年目のフォローアップ>

・委員は、フォローアップ調書、ヒアリング内容、及び、事務局が提示する基礎データ (i)、(ii) に基づき、優れた点や改善を要する点などについて、所見を示すとともに、審査観点(1)～(3)のそれぞれに関し、評定「A」（優れている）、「B」（良好である）、「C」（やや不十分である）、「D」（不十分である）のいずれかを付与する。

基礎データ

(i) 民間資金獲得額増加の実績：

令和2年度の前年度に対する伸び率【調書の記述に基づき事務局が集計】

(ii) 共同研究の直接経費に対する間接経費の割合の実績：

令和2年度の実績値及びその前年度からの伸び【財務諸表に基づき事務局が集計】

・審査観点は以下のとおりとする。

(1) 民間資金獲得額増加のための取組の実施状況：

- 計画に示した取組を着実に実施したか。

- 計画を実現するためのガバナンス強化など経営基盤の強化につながる取組を実施できたと認められる場合には、評定を高めるよう考慮する。

(2) 令和3年度以降の民間資金獲得額増加に向けた計画の妥当性と具体性、実現可能性：

- 計画変更がされている場合、変更後の計画は具体的かつ実現可能なものか。
- 計画変更がされていない場合、直近の状況等を考慮しても計画を変更しないことが妥当であるか。

(3) 交付金の活用状況：

- イノベーション創出環境強化や大学の経営基盤強化に資する取組のために交付金を活用できたか。
- 一過性のものでなく、エコシステムを確立し、持続可能なイノベーション創出環境を実現するために活用できたと認められる場合には、評定を高めるよう考慮する。

・以下の場合には、事務局は委員会に対して、交付金の減額を提案する。

- ✓ 民間資金獲得額増加の実績が合理的な理由なく著しく低い場合。
- ✓ 観点(1)～(3)について委員によって付与される評定の総数（観点3個×出席委員数）に対し、D評定の数が過半数の場合。

・委員の協議により、ガバニングボードに提示する配分額案を決定する。

<採択から3年目のアワード（追加交付金）>

（省略）